

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんげきだんこーろ 一般社団法人劇団こーろ	団体ウェブサイトURL http://kooro.org
代表者職・氏名	代表理事・澳 利子	
制作団体所在地	〒 546-0012 最寄り駅(バス停) 大阪メトロ駒川中野駅 大阪市東住吉区中野1-4-15	
電話番号	06-6704-0624	
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじんげきだんこーろ 一般社団法人劇団こーろ	団体ウェブサイトURL http://kooro.org
代表者職・氏名	代表理事・澳 利子	
公演団体所在地	〒 546-0012 最寄り駅(バス停) 大阪メトロ駒川中野駅 大阪市東住吉区中野1-4-15	
制作団体 設立年月	2011年12月	
制作団体組織	役職員 代表理事 澳 利子 理事 植田 智子 坂口 勉 岡崎 久美子	団体構成員及び加入条件等 社員4名 理事4名・監事1名 ※この法人の目的及び事業に賛同する社員をもって構成されている。
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名 岡崎 久美子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 植田 智子

制作団体沿革	2011年12月、「現代を的確に捉え、人々が未来を語る糧となるべき演劇を創造するとともに、演劇の普及・向上に努めることにより、我が国の演劇の発展に寄与すること」を目的として設立。以来、学校公演、おやこ劇場子ども劇場公演、ホール主催公演、大人向け一般公演等、幅広く活動し、現在に至る。 ※主な活動 2012年7月、「劇団コーロの三びきの子ぶた」が韓国・密陽演劇祭に正式招聘される。 2018年2月、「天満のとらやん」でアジア児童青少年芸術フェスティバル2018に参加。 2019年12月、八尾プリズム演劇助成事業として「眠っているウサギ」を上演。 2021年1月、文化庁“次のにない手を育成する子ども向けコンテンツ制作事業”として石垣市で「いいでででんしゃ」を上演。 2021年11月、文化庁「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」としてピアノ&ヴァイオリンとのコラボレーションによる「ハンナのかばん」公演の大阪・名古屋連続開催（公演後に動画配信）。		
学校等における公演実績	※設立の翌年・平成24年度より学校公演実績あり ●令和元年度「天満のとらやん」小学校27公演、中学校1公演、子ども劇場おやこ劇場2公演、ホール主催2公演、その他2公演／「いいでででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場7公演、ホール主催公演（全市小学生対象）9公演／「ハンナのかばん」中学校4公演 ●令和2年度「天満のとらやん」小学校公演2公演、子ども劇場おやこ劇場6公演／「いいでででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演1公演、ホール主催1公演、その他1公演／「ハンナのかばん」中学校2公演、高校1公演 ●令和3年度「天満のとらやん」小学校8公演、子ども劇場おやこ劇場1公演／「いいでででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演2公演		
特別支援学校等における公演実績	「天満のとらやん」2校（大阪府立八尾支援学校、大阪市立難波特別支援学校） 「ハンナのかばん」2校（主催：甲賀・湖南市高等学校人権教育連絡協議会）		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	http://kooro.org/works/01.html	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

A区分・B区分・C区分共通

No.2(実演芸術)

公演・ワークショップの内容

【公演団体名】

一般社団法人劇団コーク

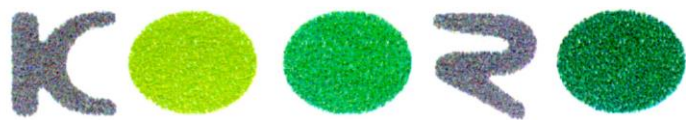
I

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	舞踊唄芝居「天満のとらやん」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「天満のとらやん」 作／かたおかしろう 演出／二世茂山千之丞 演出補／三世茂山千之丞 お囃子指導／藤舎呂浩				
公演時間 65 分					
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当あり	該当コンテンツ名	著作権
	該当事項がある場合	権利者名	作者の遺族	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	大阪の天満の町に住んだのんきぼうずの“とらやん”がうなぎを追いかけて、どこいくな。大根畠から傘屋町、雲の上から竜宮城……。大阪の民話をもとにつくられた抱腹絶倒、奇想天外の冒険大旅行話を、出語り太夫の語りや日本の伝統芸能の音色とともに送ります。(キャッチ・コピー: 狂言と和楽器の魅力を現代に生かした「とらやん」の決定版！) ※作品のあらすじ・見どころについては、添付の別紙参照のこと				
演目選択理由	●「天満のとらやん」は、大阪の民話を持つバイタリティーや庶民のエネルギー満載の作品です。好奇心旺盛で、ちょっとした失敗にあってもめげることなく、次から次へ様々な体験をしていくとらやんの姿はは、観ている子供たちを元気にするでしょう。 ●奇想天外なストーリーと伝統芸能を現代に活かした様式がうまく噛み合った作品であり、子供たちはお囃子のリズムと出語り太夫の語りに乗せられてこの世界にすんなり入り、日本の伝統芸能に自然と親しみを感じるようになっていくことでしょう。 ●出語り太夫の語る大阪弁を通して、大阪弁の魅力に触れることができます。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	■大根引きの場面: 舞台上よりとらやんが「大根引きをしたい人は手を挙げて」と希望者を募り、その中から何人かの子供たち(10名前後)に舞台上に上がってもらいます。舞台に上がった子供たちは、お囃子のリズムに合わせてとらやんと一緒に大根引きの演技をします。※ワークショップで稽古した場面とは関係なく行ないます。 ■ラストの場面(とらやんが旅行を終えて漁師に見送られ天満の町に帰ろうとする場面): 事前のワークショップに参加した子供たちが法被姿になり、学校になるリズム楽器(ギロ・タンバリン・カスタネット等)を使って漁師役の出演者たちと共演します。 ■公演後にバックステージツアーも可能です。				
出演者	とらやん: 大森大介 お嫁ん・乙姫・漁師: 梶原くみ 傘屋・雷・漁師: 枯木隆志 イナビカリ・侍女・漁師: 平井佐智子 老婆・子ガミナリ・新幹線: 越賀はなこ 出語り太夫: 魚谷尚代				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名 スタッフ: 1 名 合 計: 7 名		運搬	積載量: 2 t 車 長: 6.9 m 台 数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	8時	8時～10時		13時30分～ 14時35分	0分	15時～16時	16時30分	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。							
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択 決定後に確認します。(大幅な変更 は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月			
	10日	0日	0日	0日	10日			
	11月	12月	1月	計	45日			
	10日	5日	10日					
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。							
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安		20名～30名			
			鑑賞人数目安		500名			
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出や がわかる写真) ※採択決定後、採 択団体へ図面等詳 細の提出をお願い します。							(図1)体育館仕様で舞台設営しての 稽古の様子	
							(図2)小学校公演の様子 (ラストの場面)	
							(図3)下手側のお囃子台	
							(図4)上手側の出語り太夫台	

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1部:全校児童・生徒 2部:30名程度(1クラス単位)
ワークショップ 実施形態及び内容	■実施形態:全体で2時間(授業時間単位で)2部構成に。 1部:全校児童・生徒/2部:1クラスもしくは1学年(公演当日共演する児童・生徒) ■内容 第1部(45分～50分):全校児童・生徒対象 ①講師紹介・作品紹介をする。 ※講師紹介の際、児童・生徒に親しみをもってもらうようあだ名も紹介する。 ②ウォーミングアップとして簡単なストレッチ・発声練習を行い、その後、シアターゲーム(後出しじゃんけん・エアーなわとび等)をする。 ③出語り太夫の語りとなる「ちよぼくれ節」の節回しはどんなものかを、木魚を叩きながら実演してみせる。その後、児童・生徒にもその場で両手で膝を叩きながら体験してもらう。 ※節回しの例:芝居冒頭の主人公とらやんを簡単に紹介した台詞「むかし むかし 大阪の 天満のあたりに のんき坊主のとらやんが お嫁んと二人で住んどった (お囃子方)ソレ住んどった」 ④応用編として、児童・生徒たちに文章(いつ・どこで・だれが・どうした)を作ってもらい、それをちよぼくれ節にのって実際に語ってもらう(グループに分かれて文章を考えてもらい、それを集めてシャッフルし、一つの文章にする)。 第2部(45分～50分):1クラスもしくは1学年 ①出演場面の説明をする ※児童・生徒が登場するシーンがどこかイメージしやすいように、「お芝居の最後の方」「とらやんが海へ行って漁師に会うところ」「バックに海の絵が出る」と説明。 ②台詞・リズム楽器でのお囃子・踊りの練習をする ※順番:1・登場場面で実際に歌うことになる歌をうたってみる(1番と2番)→2・足のステップをつけて歌ってみる→3・実際にみんなが出演する場面を、少し前からやってみる(いきなり全部を通さないで、節目で切りながら)→4・歌や台詞も入れてやってみる(何回かやってみる)→5・質問タイム(わからないところがないかを聞く)→5・順番などを書いた簡単な台本を渡す。 ③発表する。		
ワークショップの ねらい	1部での、実際にちよぼくれ節で語ってもらうことで、リズムに乗せて大阪弁を話す楽しさを実感でき、そのことで、芝居への期待感がふくらみ、「観る」意識も高まっていくと思われます。 2部では、呼吸を合わせることの楽しさ、友だちと一緒に舞台を創り上げる喜びを、児童・生徒に体感してもらいたい。学校のリズム楽器を使用することで、身近な楽器に新たな魅力を発見してもらうことも目的です。		
その他ワークショップに 関する特記事項等	●形態:基本的に、児童・生徒と対面で行なう(1部の後出しじゃんけんや2部の説明は舞台上で行う) ●授業開始の挨拶及び終わりの挨拶は、先生の方でしてもらう。 ●劇団で準備しておくもの:木魚・締め太鼓等の楽器・漁師の衣裳・法被・歌詞を書いたもの3種(1部用:芝居冒頭の台詞/2部用:共演する場面の歌「えらいこっちゃ」の1番と2番)・ちよぼくれ節体験用の大きめの紙(スケッチブックなど)とマジック(グループ分) ●学校の用意して欲しいもの:ホワイトボード・ホワイトボード用のマーカー・マグネット		

リンク先	No.2	【公演団体名 一般社団法人劇団コーロ】
演目概要	【あらすじ】 大阪の天満の町に住む“とらやん”が、「まむし井、食べたいわア」というお嫁んのためにうなぎを調理しようとして、うなぎに逃げ出されてしまった。 「つかまえてこな、今日の御膳食べさしまへんよってな！」とお嫁んに言われ、“とらやん”はうなぎを追いかけて、大根島から傘屋町、雷一家が住む雲の上、果ては海の底の竜宮城まで奇想天外な冒険旅行を続ける……。 【作品のみどころ】 ●上手側で出語り太夫がちょぼくれ節（木魚をたたきながら節をつけた語る芸）にのって大阪弁で語り、下手側で和楽器の生の演奏が効果音やお囃子として奏でられ、それに合わせて、役者が舞台中央でマイムで演じていくという、大阪にわか、文楽、狂言等の伝統芸能の様式に即った舞台となっています。 ※作者は「舞踊唄芝居」と名づけています。 ●約20種類の和楽器を使います。 ●舞台背景は絵本形式のパネルを3つ設置していて、場面が変わるごとに、絵本をめくるように背景もかわっていきます。絵の変化が目にも美しい上に、その場面を想像する助けとなっています。 ●6名の出演者の内、出語り太夫、主人公のとらや以外の4名が、入れ代わり立ち代わりして様々な登場人物を演じていきます。その変化を観るのも楽しいものとなっています。 ●衣裳は、基本衣裳を始め、日本の伝統芸能を踏襲したデザインとなっています。 ●客席の両側に、幟を立て、体育館全体を芝居小屋の雰囲気仕立てしています。 ●このお芝居の様式や和楽器を身近に感じてもらいたく、芝居の前説で、様式や使用している和楽器の特徴を簡単に説明します。	



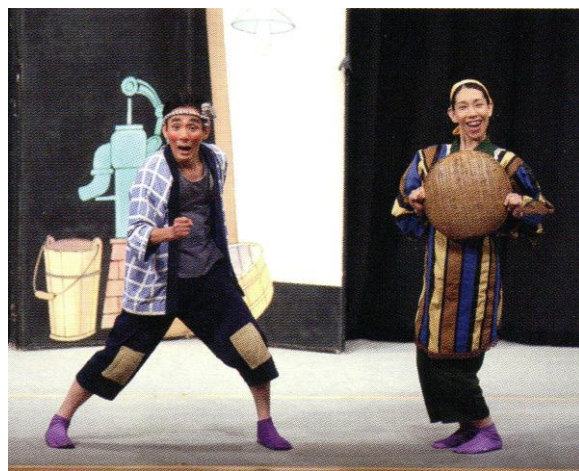
演劇を通して生きる力を！

「天満のとらやん」

上演時間：60分(休けいなし)・解説5分

狂言と和楽器の魅力を現代に生かした「とらやん」の決定版！

むかし むかし 大阪の 天満の町に住んどった
のんきぼうずのとらやんが まむし丼食べたいな
うなぎを一匹買ってきて まな板の上にねかせて
キリでエイヤッとつきさした と 思うたら
うなぎによろいどにげだした
「あっ こら まてえまってくれ うなぎど〜ん！」
とらやん とらやん どこいくねん
うなぎ追いかけてどこいくねん
まちこえ川こえどこいくねん
とらやんの冒険旅行
はじまり はじまり



● スタッフ

作／かたおかしろう 演出／二世茂山千之丞 演出補／三世茂山千之丞 お囃子指導／藤舎呂浩
美術・衣裳／谷ひろし（人形劇団京芸） 絵・製作／青木貞男 制作／澳利子

● 登場人物 ※登場順

とらやん・お嫁ん・老婆・傘屋・イナビカナリ・子ガミナリ・雷・新幹線・乙姫・侍女・漁師
・・・出語り太夫



♪ 出てくる楽器 ♪

釣り太鼓・宮太鼓・締め太鼓・おけどう・三味線
ドラ・ほっけ太鼓・拍子木・木しょ
ウッドブロック・スライドホイッスル・シンバル
その他





「天満のとらやん」

上演時間60分(休けいなし)・解説5分

狂言と和楽器の魅力を現代に生かした「とらやん」の決定版！

ご挨拶

三世茂山千之丞



この度劇団こーロさんより、祖父の二世千之丞が数十年前に演出した「天満のとらやん」を演出しなおしてほしいとお話を頂き、どうしようかと随分悩みました。他の誰かが描いた絵画に筆を足すことが難しいように、お芝居でも既に出来上がっているものに手を加えるのは困難な作業です。それが今までに何度も繰り返し上演されてきた名作となればなおさら大変です。それでもやらせて頂きたいと私の背中を押したのは、かたおかしろうさんと祖父が一生懸命こしらえたであろう「天満のとらやん」を、これからも末長く子ども達に見てもらいたいという思いからでした。台本や元の演出の良いところはなるべく残しながら、令和の時代の子供達によりすなりと作品の世界観に入っていけるようお手伝いが出来ればと思っています。時代を超えて残っていくものの素晴らしさはきっと子ども達にも伝わると、室町時代より続く狂言を演じている私はそう信じております。

(2020年8月記)

本名茂山童司。1986年、『魔法使いの弟子』(NOHO劇団)で初舞台。これまでに『千歳』、『三番三』、『釣狐』、『花子』を抜き2018年12月三世千之丞を襲名。

語学に堪能でNHK語学番組にレギュラー出演をしていた他、国内外でバイリンガル狂言公演を行うなど表現者としての新境地を切り開いている。作・演出を手がける「新作」純「狂言集マリコウジ」、コント公演「ヒャクマンペン」を主宰。狂言以外にも最近では2016年に「三代目、りちやあど(オンケンセン演出)」、2019年「ゴドーを待ちながら(多田淳之介演出)」に出演。オペラの脚本・演出を手掛けるなど狂言師としての枠を超えて精力的に活動中。2019年第37回京都府文化賞奨励賞受賞。

「こしらえもの」のお芝居

二世茂山千之丞

……いわれる「写実」的なお芝居だけが芝居だと思うのはドンデモナイ間違いです。……私の本職である『狂言』や、その従兄弟の『能』、息子や甥・姪に当たる『歌舞伎』『文楽』、そしてヨーロッパの『オペラ』や『バレエ』、さらには『ミュージカル』では、歌や踊りや音楽が、普通の、日常性の中での言葉や動作以上の働きをしています。彼等は観客の想像力に期待して、写実的な演技では表現しえない、虚構のみが出しうる演劇的な「真実」を、舞台の上に醸し出すのです。そして、先入観に災いされることの少ない、イマジネーションに富んだ子ども達こそ、こうしたお芝居にとって最も良い観客たりうるのです。

かたおかしろうさんの傑作歌芝居『天満のとらやん』を、私は出来るだけ「こしらえもの」のお芝居の面白みを味わっていただけるようなものにしたいと思っています。チョン・チョン・チョンチョンチョンチョン……。

(※紙面の都合上、一部抜粋)

